

第二五五回ペン川柳会

令和七年八月二十五日

お題 「浮・浮く」

■ 三春（火酒）

ウオツカ

老いてなお流す浮名の二つ三つ

総入れ歯歯の浮く世辞も役立たず

■ 八木（明迷）

めいめい

令和御代浮世の沙汰も米次第

動悸動悸と浮き浮きの果て泣きを見た

■ 大森（吞助）

のみすけ

今日もまた出るものが出ず浮かぬ顔

わが人生出たところ勝負の浮き沈み

■ 塚田（拿々）

だだ

宮仕え上司選べず浮き沈み

山の神睨み怖くて浮気無し

■ 稲宮（井波）

いなみ

八十年沈んで浮いてまた沈む

憂世だね浮いて蹴（もが）いてもうゴール

■ 浜田（我々好）

ウイスキー

披露宴歯の浮く祝辞の競技会

浮き世でも沈むばかりの奴もいる

■ 松谷（零門）

れいもん

オーラスで役満振ってトップ消え

熱戦も無視してスマホにかじり付き

■ 大野（だし）

浮動票どこまで信じてよいのやら

浜町河岸浮いた噂を思い出す

■ 中村（アキチャン）

川柳は浮かばれぬ奴のつぶやきか

旦那はんのあれは浮気よ知らんけど

てるつぐ

■ 安藤（晃二）

ポルカ舞う「浮気心」やシュトラウス

鴨に浮き雌現れて空中戦

世話人 塚田 實（だだ 拿々）